



エクシード茅ヶ崎 防災活動ニュース

発行NO 第2号
発行日 2017年2月8日
発行 エクシード茅ヶ崎
防災対策委員会
編集者 市場 祐輔

17年総合防災訓練「冬」実施

全戸対象の津波避難訓練 高層階への避難 約70名が参加

本年度、防災活動計画にも基づき、1月29日(日)10時から当マンション全戸対象の津波避難訓練を実施しました。今回の想定は震度5強以上の地震発生、相模湾に大津波警報発令、地震後約20分で津波到達が予想される。

1～4階の住民は「黄色いタオル」を玄関前の手すりに結んで上層階に避難、5階以上の住民は「黄色いタオルを結んで」解放廊下に待機してもらいました。

10時に津波警報発令後、上層階へ避難するよう放送開始、自主防災委員は1階～4階の住民に上層階へ避難するよう呼びかけ、各階の状況無線を使って防災本部(2階集会所)へ連絡した。防災本部では各階担当の自主防災委員からの避難状況の連絡を受け、避難リストに記録し、確認・フォローを実施した。大津波警報発令後、ほぼ予定通り22分で上層階への避難が完了した。



上層階への避難風景



避難済み目印
手すりに結ばれた黄色いタオル



各戸への避難呼びかけ



スケジュール・役割分担説明



行動マニュアル確認



無線で各階の状況確認



各階の状況を記録する

自宅トイレ活用訓練、仮設トイレ組み立て

避難訓練終了後、2階集会所に集ってもらい、鈴木防災リーダーより一泊避難体験の結果報告と、防災概要について説明してもらいました。(一泊避難体験結果は裏面参照)

その後、一階ロビーにて、高原防災リーダーより断水や停電・下水道の破損時、自宅トイレの活用方法について、ビニール袋と凝固剤等の資材を使って、排泄物の処理方法を実演してもらいました。また、住民による仮設トイレの組み立て体験も行いました。



自主防災概要について説明



住民による仮設トイレ組み立て



自宅トイレ活用方法説明



水に凝固剤を投入



一瞬でゼリー状に固まる



ビニール袋の使い方

震災時、最も必要なのは水とトイレであり、万が一の際に断水でも使える「簡易トイレ」と「水」を各家庭で備蓄しておきましょう！

震災を想定し2階集会所にて 一泊避難体験、13名が参加



ランタンに電池を入れ照明準備

1月28日（土）22時に自主防災関係者13名が2階集会所に集合し、電気暖房設備が使用できない環境の中で一泊避難体験を実施しました。

長年の活動により備蓄されている、エクシードの防災備品が実用的であるか、寒い時期の避難にどこまで対応できるか実際に試してみました。集合時の室内気温8℃、早朝時の室内気温2.5℃の状況の中で、11名の方が2階集会所にて一夜を過ごしました。



寝袋、毛布で寒さ対策、一夜を過ごす

夜22時に集合し、鈴木防災リーダーより手順の説明を聴き、まず、防災棚よりランタンを取り出し電池を入れ照明の準備、次に、寒さ対策で一夜を過ごすため、備品置き場から寝袋、毛布を準備、その後、2階集会所の床にフローアーマットを敷き寝床をつくりました。

2階集会所の広さから11名が宿泊するには余裕でしたが、最大で30名程度の宿泊が限度と思いました。

当日の宿泊体験は、わりと気温は高めであり、使用した備品で寝ていて耐えられない状況ではありませんでした。但し、大きい人は寝袋に入りきれない問題がありました。

朝5時半に起床（気温2.5℃）し、備品等の片付けを行い、6時に解散しました。



床にフローアーマットを敷く

当マンションの各団体役員へ 防災活動の概要説明会実施

12月より管理組合の理事交代に伴い、1/15(日)当マンションの各団体の方に集合頂き、コミュニケーションの向上及び情報の共有化を図る目的で防災活動概要等についての説明会を実施した。

当日は、自治会役員・理事会役員・民生児童委員・さわやかクラブ会長、防災隊員関係者24名が13時半に集合し、自己紹介を行い、防災隊の鈴木防災リーダーより防災組織、防災委員会の構成と位置付け及び本会の役割を説明してもらいました。また、防災隊の田中防災リーダーよりトランシーバーの使い方を説明してもらいました。

今回初めて実施し、関係者に理解してもらう事は非常に良い事であり、今後自治会役員の交代時（4月から）も含め、継続的に開催を企画します。



関係者24名、防災意識を深めた



災害時の連絡網

緊急時茅ヶ崎市より下記流れで連絡が入ります



一泊避難体験に参加された各役員の方及び避難訓練等に
参加された住民の皆さん、お疲れ様でした。